

和訳

ベンジャミン・フランクリンは、1706年1月17日、マサチューセッツ州ボストンで生まれた。当時、ボストンはマサチューセッツ湾植民地として知られていた。フランクリンは幼い頃に読み方を覚えた。しかし、彼が10歳の時、父ジョサイアは彼を学校から退学させ、家業である石鹼とロウソクの店で働かせた。12歳になる頃、フランクリンは落ち着きを失っていた。彼は船乗りになることを夢見たが、父親はその考えに反対した。少年の本と読書への愛を認めた父は、彼を兄のジェームズが営む印刷所の見習いとして修業に出した。

兄のもとで、フランクリンは新聞事業を学んだ。当時、新聞は一文字ずつ手作業で組版されていた。印刷は印刷機を使って手作業で行われた。この仕事を通じて、フランクリンは文章の注意深い構成に対して深い理解を抱くようになった。彼はまた、鋭い政治批評を書く才能も開花させた。彼は、サイレンス・ドゥーグッドという名前の架空の町娘のふりをして文章を書いた。兄のジェームズ・フランクリンは、自分が発行していた『ニューイングランド・クーラント』紙に掲載していたドゥーグッド夫人のエッセイが、実はベンジャミンのものであることをついに突き止めた。彼は面白くなかった。彼は弟の執筆活動に憤慨し、そのことで頻繁に弟を殴った。そのため、16歳でフランクリンはニューヨークへ向けて出発した。彼は最終的にペンシルベニア州フィラデルフィアに定住することになる。

フランクリンは、進取の気性に富む若者としてフィラデルフィア周辺で評判を得た。1728年、彼は友人と協力して印刷所を開いた。やがて、フランクリンは一人で事業を営むようになった。彼は政府のためにパンフレットや本を印刷した。数年のうちに、ペンシルベニア植民地は彼を公式の印刷業者に指名した。1729年、フランクリンは『ペンシルベニア・ガゼット』紙を買収した。彼のリーダーシップのもとで、それはアメリカ植民地で最も人気のある新聞となった。フランクリンはコミュニケーション革命の中にいた。パンフレットや新聞などの印刷メディアは、やがてアメリカ革命を引き起こすことになる思想を広めるための中心的な手段となつた。

フランクリンは、市民が十分な情報を得ていることの重要性を信じていた。毎週、彼は哲学、道徳、そして市民としての徳について議論するために、志を同じくする男性たちのグループを集めた。そのグループは「ジャン(Junto)」という愛称で呼ばれた。メンバーは本を共有し、後の公共図書館となる活動を開始した。

フランクリンの出版における成功は、『貧しいリチャードの暦(Poor Richard's Almanack)』の導入後にさらに成長した。それは1732年から毎年発行された。リチャード・サンダースという人物の語り口で、フランクリンは天気予報、詩、天文学に関する情報、その他の娯楽を提供した。この年鑑は、日常生活に関するフランクリンの人気のあることわざで特に有名だった。これらには、「痛みなくして得るものなし(No gains without pains)」や「早寝早起きは、人を健康に、裕福に、そして賢くする」といったものが含まれていた。この本は年間平均1万部売れた。

1748年までに、フランクリンはペンシルベニア州で最も裕福な市民の一人になっていた。彼は印刷業から引退し、科学的探究に身を捧げた。1752年に行われた凧と鍵を使った彼の実験は、雷が電気であることを疑いようもなく示した。彼は避雷針を発明し、「バッテリー(電池)」や「エレクトリファイ(帯電させる)」といった多くの科学用語を考案した。彼はまた、特殊な眼鏡(遠近両用眼鏡)や、最初のロッキングチェアと考えられているものを発明した。

1751年、フランクリンはペンシルベニア議会の代表に選出された。彼は1764年まで毎年再選された。1765年、議会が印紙法を可決した後、植民地とイギリスの間で緊張が高まり始めた。この法律は、植民地での商用や法的な事柄のために印刷されるすべての材料に税を課した。当時、

フランクリンはペンシルベニア州の代理人としてイギリスのロンドンに住んでいた。彼は議会に出廷してその税を非難した。この努力が、1766年の同法の廃止につながる助けとなった。

フランクリンは1775年に第二回大陸会議の代表に選出された。彼は以前のイギリス議会での経験から洞察を得ていた。1776年に議会が植民地をイギリスの支配から分離することを決議したのは、部分的には彼の助言に基づいていた。フランクリンは独立宣言を起草する委員会に加わった。彼はトーマス・ジェファーソンの最初の草案に重要な変更を加えた。その後、彼はフランスへ渡った。そこで彼は、将来のアメリカ合衆国に対するフランスの軍事的および財政的支援を確実にする条約を交渉した。フランクリンと同僚のジョン・アダムズ、ジョン・ジェイはイギリスと和平条件を交渉し、1783年のパリ条約へつながった。この条約はアメリカ独立戦争を終結させ、独立国家としてのアメリカ合衆国の設立をもたらした。

1787年、フランクリンは合衆国憲法を起草し批准した憲法制定会議にペンシルベニア州代表として出席した。81歳だった彼は、集まった55人の代表の中で最高齢だった。後に、フランクリンはペンシルベニア奴隸制廃止促進協会の会長を務めた。かつては数人の奴隸を所有していたことがあったが、フランクリンは1790年に議会へ手紙を書き、合衆国における奴隸制の廃止を主張した。

フランクリンは1790年4月17日、フィラデルフィアで死去した。彼は84歳だった。彼の回想録は、彼が亡くなった後に編纂され、出版された。今日、それらは『ベンジャミン・フランクリン自伝』として知られている。それは自伝の古典とみなされており、多くの言語に翻訳されている。